



和漢文探

詩類
辭類

歌類

二

5
4710
2



門 5
4710
2

江化王年

花天

友四世



和漢文探卷之二

○詩類 附序

△大和真名詩序

並贊

東華坊

頃日撰分獅子庵之文庫迎點換燈花
詩叢了則從歌行詞曲之題類雜五言
七言之律詩而大槩有二百余首
去者從延寶之中比及貞享之末迄十
餘年之草稿也其詩也為下學太子太白之



大梁卷二

以情字杜子美之以次止乎字之而思
之則心知而不口慙初看從音訓之違
決而知難字物了矣於茲從元祿之始
思立大和之詩而製假名與真名之二
樣了則假名之詩者從五七之句法殆
為似和歌了共語路之拍子者謂漢土
之詩矣于然謂真名之詩者憚音韻些
調平仄些蜂腰鶴膝之掙這一麼不肯
漢家之詩法交以音訓之通路視之時
者漢字也共聽之時者和文也栗左在

珠有故翁之所謂事大和者從中音之
以俗有狂歌有狂詩而以如夫者千金
是者疝氣秀句與口相之雜語為各附
詩共歌共栗左有者一座之酒與而謂
猿擊人之輕口矣文章者例有娑情之
二而娑情有先後事者從本詩歌之骨
法也則言語之面通味者可口傳了共
娑情之枯回者不心知與所我今傳居
其間之糸躬而同以以雅不認於諸越
別以比與不狂于大和實麼思被喚我

朝之詩而特_レ有_レ雅俗通用之一格事_レ歷
 乍_レ充_レ有_レ和_レ漢語之音韻而_レ用_レ俚語之
 續_レ了_レ則_レ似_レ通_レ首_レ之狂詩而_レ不_レ道_レ翫法之
 罪_レ止_レ所_レ詮_レ者_レ為_レ踏_レ詩之六義此_レ尋_レ韻端
 活法之古語而用_レ二字之字之韻礎居
 據_レ說_レ文韻會之正義而調_レ五言七言之
 和_レ訓_レ至_レ者_レ何_レ連_レ可_レ成_レ數_レ段_レ者_レ之狂詩成
 表_レ貝_レ師_レ之狂歌矣耶_レ多_レ見_レ羅山之七字
 城_レ了_レ則_レ其_レ言_レ取_レ漢語以_レ詠_レ我朝之事_レ而
 此_レ可_レ為_レ骨_レ彼_レ可_レ為_レ飾_レ與_レ者_レ一言_レ萬_レ當_レ之

凡_レ例_レ而_レ謂_レ為_レ盡_レ大和_レ真_レ名_レ之要_レ矣夫_レ學
 世_レ人_レ者_レ可_レ恐_レ此_レ不_レ恐_レ此_レ人_レ者_レ不_レ學_レ彼_レ了
 增_レ而_レ謂_レ大音_レ之_レ以_レ俗_レ則_レ此_レ物_レ以_レ人_レ尔_レ麼
 為_レ先_レ教_レ誡_レ之_レ情_レ而_レ為_レ後_レ文_レ章_レ之_レ姿_レ了_レ則
 范_レ鳥_レ之_レ優_レ游_レ尔_レ者_レ為_レ厥_レ樣_レ也_レ共_レ盡_レ實_レ情_レ
 之_レ餘_レ連_レ加_レ陪_レ助_レ語_レ副_レ止_レ乎_レ古_レ之_レ情_レ者_レ隨_レ
 天_レ理_レ居_レ今_レ之_レ情_レ者_レ變_レ人_レ理_レ歷_レ爾_レ有_レ則_レ溫
 情_レ之_レ故_レ而_レ知_レ姿_レ之_レ新_レ了_レ哉_レ漸_レ從_レ李_レ唐_レ之
 詩_レ人_レ增_レ而_レ至_レ趙_レ宋_レ之_レ作_レ者_レ則_レ詩_レ尔_レ者_レ除
 助_レ韻_レ之_レ字_レ而_レ五_レ七_レ之_レ間_レ不_レ費_レ言_レ葉_レ見_レ習

其身其終之名人而巧一字一言之妙
 欲言無量之情共似童部之屬言傳而
 有甫人麼推量之沙汰也乎實夫我朝
 者手不波國也則傲詩經之麟之皇矣
 而可用乎哉乎也之詞阜矣歌行之類
 者勿論之事也其內音韻與平仄之事
 者不知所用之道理共暫不背古法耳
 也則假令遇兩韻之字時者可勿論用
 兩韻矣乎從本見為得詩聖之名杜律
 之五言七言了則平仄之不合麼有多

亦有向不知者而論不知事則在麼日
 麼摸象之費也乎孰思以雅之變則詩
 者成騷騷者成辭而今者成詩歌與連
 佛了則和漢有面々之物數奇而諫人
 宛爾我宛從詞遣之虛實例知淋敷去
 與面通去則詩者唯遊志之行處而不
 如知言語之無用乎左者云些些詩之
 易學而黃白之給麼稍有多則世更成
 狂詩之思而不田干烟學文之人者成
 巴人薤露之和共向以而鼓之則不堪

于白雪之詠，其誠恐而可學，誠學而可
思者，唯是此詩之凡姿也。則凡情者，今
之不及言，其于時元祿乙亥冬，神無月
十二月，試製真名之詩，而琴貝故公羽之盃
像者，爾也。

其琴

東荅坊

此翁昔在武陵城，野分芭蕉以雨鳴。
蘭窗得時櫻，繫馬序山捨世竹，棲鶯
歌羞西上人，陸生渡詩，做杜工部字情。

和漢文章誰可敵，假名不必隔真名。

○評云此詩八婉靡之法，以テ和漢兩用ノ作用云ニ持スルニ
一二ノ起句ハ祖翁膏テ武江ニ通テハ芭蕉野分シテ
盟ニ雨ヲ雨夜哉ト其世ニ響音スル發句ニテ芭蕉菴
ノ名モ此時ヨリトヤ然レハ前對ハ一世ノ榮辱ナカラウ由
文集ノ詩勢ヲ假リ後對ハ一生ノ凡雅ニシテ常ニ兩行
ノ山家集ト杜律ノ五言トヲ持アルキ結ル信古ノ愛情
ヲ顯セルナリ此故ニ七八ノ結語ハ假名ト真名トノ通用ヲ
稱シテ遠ク祖翁遺命ヲ傳ヘ近ク我師本懷ヲ遂ナリ

琴貝雪中柳

此繪使人思古詩，梅花未識竹先知。

知^ル不^レ識^ラ孰^カ互^ニ愈^キ 柳^ノ乍^ラ氷^ニ凝^ル被^レ雪^ニ推^カ

○評云此詩ハ墨詔ノ格ニテ法ハ換骨ノ絶妙ト稱セン去^ルハ
崑山ト夜雪ノ句ヲ假リテ覺^ル字ヲ識^ル字ニ換タル例ノ
腰句ヲ思^フ時ニ詔路ノ拍子ヲ調^シ爲^ス増^テ孰^カ愈^キ
トハ論語ニ知^ル字ノ裁入ナリ然^レハ梅行ノ知^ル不^レ知^ルヨリ
御^ハ知^ルトカラ雪ニ推^レ居^ル人ニ利^ニ鈍^ク用^テ知^ルトニ詩ハ
誠^ニ此^等ノ諷諫ヨリ孔子モ常^ニ勸^メ玉^リ竹^ヲ簞^ハ濃^ク
野航亭ニ在^リテ祖翁ノ竹^ヲ簞ト同ク十襲ス柳雪堂
ノ標号モ此時ノ稱ナリトワ

詠^ス懸^ル松^ニ薜^ラ

何^レ不^レ朝^ル顏^ヲ知^ラ我^ノ秋^ヲ 松^ニ憑^ル千^ニ歲^ノ幾^ク程^ノ秋^ヲ

凋^ル時^ヲ可^ク恥^ム祇^ニ王^ノ意^ニ

莫^ク恨^ム不^レ知^ル白^ク雨^ノ路^ノ秋^ヲ

○評云此詩ハ韻一協ニテ詩意ハ註^ス及^ス祇^ニ王^ノ神^ノ女
カ四^ノ跡^ハ暖^ク暖^クノ祇^ニ王^ノ寺^ニ在^リ發^ス心^ノ歌^ニ萌^ル出^ル生
枯^ルモ同^ク野^ノ邊^ノ草^ノ何^レカ秋^ニ建^テ果^キト誦^ス
テ佛^ノ前^ヲモ恨^{スト}然^レハ此^ノ詩^ノ韻^ハ其^ノ歌^ノ意^ニ
摘^テ秋^ノ一^ノ字^ヲ運^ルルナリ首^ノ句^ト落^句トニ不^レ知^ルニ字^ハ
連^佛云^ハ同^ク字^異訓^ニ此^等ヲ和^詩ノ凡^例ト知^ルレ
不^レ知^ルモ莫^ク恨^ムモ万^ノ葉^ノ熟^ク詔^{ナリ}

戲^ル俄^ニ道^ノ心^ニ

四^十八^枚頼^ル

終^ニ成^ル絨^ノ子^坊

與凡憎若繁
肩此有伴達
亮尊初雪且

每物遺淺黃
心曾無化粧
立不取梅香

○評云此詩ハ全ク大和ニシテ四十八願ノ仏語ヲ假テ紙ノ縁語ニ結スル戯ノ一字ノ詠諧ト知レ按スルニ此法師ハ歌舞ノ遊興ニ千金ヲ尽シテ若道心ト成レルヤ若繁ノ二字ハ其所縁ト因ニ此故ニ七八結句ハ初雪ノ凡次ヲ以テ梅香ハ凡情ヲ含スル一篇ノ凡雅ハ此二句ニ在リテ立而不取者其由也興ト云ル論語ノ詞ヲ裁入スル詠者ノ虛實ハ更ニシテ又ニ摘採ノ絶妙ト稱スレ増テ梅香ハ絆子ノ鼻ニ敵シテ一篇ノ起結ト知キナリ誠ニ真名ノ詩鑑ト云ヒ

頃日従リ二竹丈人祝ニ七夕之節供ラ
而被贈一束一更謝每歲之
思而聊寄四情而已

一束荷恩何若輕
思君四百八十情
誰知一筆敢於荻
音信不諱又月名

○評云此詩ハ大和凡躰ナカラ論セハ連歌ノ優情ト云ハシ十帖ノ絆ヲ枚々ニ分ケテ四百八十ノ恩情ヲ荷フトハ誠ニ微意ヲ尽セリト云ヒ然レニ十字ヲ時深坊ニシテハ春風ニ而九十橋トモ南朝四百八十寺トモ其類ヲ長安ノ語音トカ詮スト我朝ノ人ハ語音ニ通セス何ノ道理トハ知子臣古法ニ任スル例ノ故安ナリ去ルニ四ノ結文ハ全ク和歌ノ詞ヲ摘テ

定家卿ノ神無月ヨリ緯ニ文月ノ名ヲ寄セス秋ノ音信モ
和歌ノ向額ニ此等ニ和漢ノ通用ヲ稱ス但レ山南ハ枚
類ニテ夏濃ニ封緘ノ名産ナリ二竹ハ戸田家ノ武士ニ濃ノ
名崎ニ嘉道セリ先師ニ膠漆ノ同友トクモ擗スルハ山南
ノ詩ト伊道ト下ノ詩躰ハ大和ニ連俳ノ二様ヲ尽シテ此等
ヲ真名ノ詩鑑ト云ハシ然レハ祖公羽ノ恐レ玉ル狂詩狂歌
ノ難ヲ道レテ多ニ雅俗ノ常用ヲ知テナリ

右ハ五首ノ者ニ有之祿之新製而
燈花詩叢之附録也左有厚
一再撰文擇而為大和真名之
濫觴後人宜敷可勘察也

真名詩類 雜題

和栗山氏詩

林道春

有雄^{ハシメ}又^{ハシメ}有雄^{ハシメ}也 此氣浩然^{トシモ}在^レ言^ヒ
雖^ト古^ク神代^ノ春來^ル者 東風吹寄^{スル}自^リ天原^ノ

○評云此詩ハ羅山文集ニ在テ殊ニ我神ノ始ラ云レハ多ニ
真名ノ詩ノ首ヲ仰トセリ然レニ詩ト歌トハ語路ノ拍子
ニ別テ透アリテ俣語ヲ用テ成リ俣語ヲ用テト
俣詩ト成レハ此等ニ後者ノ評ヲ待テ詮^ル可^クハ狂詩ト
俳詩トニ歩千里ノ好悪ヲ知レトナリ擗スルニ言語拍子
ハ本ヨリ俳諧ノ自用ニシテ和歌ニ五七ノ出云ヲ知テヤラ俳諧

三四六ノ文法ヲ立ル例ニ類ノ意地ヲ知レテ六詩ト云イ
文ト云イ五七ト四六トノ拍子ヲ知ル和歌ノ優情モ俳諧ノ平話
モ雅俗ハ言々ニ知キナリ

秋風像

蓮二房

世傳ハ老翁
今見何難面

越路恨秋風
松残夕日紅

○評云此繪ハ松ノ木陰ニ老僧ノ杖ヲ推テテ雲ニ夕日ノ残照
ヲ詠スル躰ナリ去ル世羅先云羽ノ越路ノ行脚ニ赤々ト
月ハ難面モ秋ノ風ト詠セシ旅行ノ愁情ヲ引替テ今見
ル景色ノ面白ト轉シテ答ルモ作者ノ活法ナリ此等ニ
意地ヲ知テ其繪ハ越中ノ倚屋亭ニ在テ知ニ有テ家珍ト
セリ

戲影法師

水陳人

木端影法師
無當非玉危

盡取夜寒
無當非玉危

○評云此詩ハ例ノ詠詠ナカラ徒然州ノ意ヲ摘テ今法師ノ
無風雅ヲ詠諫セシ身ヲ木端ニ括果テ月花也ヲ霄霖
セハ玉危モ當ナキ心地フト全篇ニ月ヲ含ム隱見ノ法
ヲ見キナリ結句ハ木端ノ繫ヲ玉危無當非玉危
ト云フ文選ノ詞ヲ採ル非字ノ影裏各ヲ互見スレテト
當字ニ平仄ノ論ハ例ノ兩韻ニ任スキナリ作者ハ尾陽ノ
素水ニシテ水陳人ハ標号ナリトフ

謝初茄子作者八慧庵記 土方聖

含露^テ豳^ラ菴^ニ鮮^キ 更思^ニ竹^ノ所^ノ綠^{ユカリ}
我^レ鄉^ニ何^ノ互^ニ晒^キ 日^ニ瘦^セ不^ス掉^ル娟^{ナリ}

琴^ニ身^ニ羽^ニ繪^ニ之^ニ蒲^ノ首^ノ吸^ヒ 渡^リ白^ク狂^ク

峯^{コソツテ}吸^ヒ蒲^ノ首^ノ何^ノ國^ノ儕^ニ 足^ハ如^ク竈^{カノロキ}馬^ノ只^レ如^ク蛙^ニ
豳^ム時^ニ有^ク好^ク威^{オホク}童^{オトコ}部^ニ 夕^ニ遇^ハ栽^カ園^ニ可^キ振^ツ疾^ヲ

他^レ圖^ハ洛^ノ全^ク暇^ナ筆^ナナリト詩^ハ詠^ハ諧^ニシテ註^ニ及^ビ其^ノ繪^ハ
濃^ク六^ノ之^ノ亭^ニ在^リ但^シ栽^カ園^ニ百^ノ葉^ヲ移^テ高^ノ卧^ノ郎^ハ自^ラ稱^ス

△假名用真名韻序並詩 康安道

我^レ圖^ニ諸^ノ越^ノ之^ノ人^ノ者^ハ作^レ詩^ヲ了^レ共^ニ不^ス能^セ他^レ國^ノ
之^ノ歌^ヲ大^ニ和^ノ之^ノ人^ノ者^ハ誦^ク歌^ヲ了^レ共^ニ不^ス能^セ彼^レ邦^ノ
之^ノ詩^ヲ假^ニ令^ク詞^者有^ル音^モ訓^之違^ヒ麼^モ情^者何^レ
逆^テ隔^テ和^シ漢^ヲ矣^ハ自^ラ則^テ高^ク靡^ク人^モ麼^モ則^テ大^ニ和^ノ歌^ヲ
而^{シテ}誦^ク我^レ唐^ノ國^ノ之^ノ妻^ヲ所^ノ意^ニ敷^ク琉^ノ球^ノ人^モ麼^モ遊^ブ
筑^ク紫^ニ而^{シテ}詠^ク紅^ク葉^ヲ希^ク自^ラ園^ノ之^ノ夕^ニ自^ラ曾^テ泉^ノ矣^ハ皆^シ
只^レ為^ル凡^ノ雅^ノ之^ノ通^ク情^者辱^ク故^ニ初^ニ社^ノ所^ノ自^ラ彼^レ邦^ノ
之^ノ詩^ヲ經^テ者^ハ通^ク我^レ朝^ノ之^ノ万^ノ葉^ヲ集^メ居^テ唐^ノ詩^ノ之^ノ

凡有為假古今集與哉詩者本通和漢
之志了則也今者六歲之先也季儂東
有桃花克仙而奈何捨我國之易讀假
名而學他邦之難知真名耶迎新製平
假名之詩而今盡漢家之詩法者誠謂
本朝之文鑑者矣於茲不恥我拙頃日
送蓮老師之歸羨濃迎為假名之詩用
真名之韻止乎老師稱其詩曰先師昔
有奈猶又而斯所所交和漢之韻今也
以此詩之格可謂万葉之韻與所誠哉

如放之文之箭而獲八百之區率夫不
謂微俸耶仍以爾云

招ふおのく此年とあり霜 おあ秋の旨とありかき

位れあふまふ此ふあり友 くら時毎のまふ葉

享保甲辰の歳且一削の詩とあり

まふて万葉の韻とあり一冊の撰抄

國君と祝下 鹿守道

去るれを袖にけり暮 くらむをさあらむ葉
我を心もささけり足 くらむをさあらむ葉

おろく万葉集とて
おろく万葉集の字とて

毛物子

天はあはれとて

我らありとて

草のあはれとて

現のあはれとて

○評云右此之首は万葉集の濫觴ニシテ或ハ音ヲ用イ

或ハ訓ヲ用ユ去ル其書ニ跋渉シテ多ハ古例據シヤ

学フハ例ノ狂簡ヲ恐テ作者ハ賀ノ金城ニ住シテ

庶能ヲ姓トシ安道ヲ名トス本ヨリ詩騷ノ逸人ナリ

トツ毛物子ハ橋姓ニシテ俳名ヲ侶鶴ト云フ金城ニ数奇

ノ名ヲ稱シテ編行官家ノ人々モ友トシ学ヒト云フ皆

嘗テ先師ト虚実ヲ論シテ書通ノ遊敵ナリトク

享保甲辰の夏あしかの二万葉の詩とひらき

とちやては月雨のおはれとて
はくろくけはくろく二万葉の詩とて

田家感

蓮二万

はくろくけはくろく二万葉の詩とて

花のあはれとて

はくろくけはくろく二万葉の詩とて

後のあはれとて

○評云此体モ万葉ノ韵ニ似ヌト多ハ訓ニシテ音ハ稀

ナラン然レハ格ノ要ス所ハ和漢ニ字ノ熟語ヲ尋テ

私ノ韵礎ヲ作ラフス狂ト不狂トハ此壞ナリ按テ露濃

ハ雅俗通用ノ平語ニテコイモケレハ例ノ通語ナリ俗中

ノ二字ハ日本紀ニ出テ歌副ハ万葉集ニ在リ斬通ハ真名

伊勢物語ニカハシラカレトハ例奥各語ナリ然レハ浅香花
カウニト詠レ影副所見山井乃ト誦メル總テハ古歌ノ
裁入ニテ也等ヲ二字韻ノ鏡ニ見ルレシ去ト爾思凡
糸瓜氏俗習ニ用ク来レル故其ノ詞ハ論ニ及ハズ但ハ
自己ノ作ト云フ庄或ハ古文ノ例ニ效ク或ハ文字ノ美ニ據リ
或ハ字訓ノ郷音ヲ假ラハ却テ奇絶ノ作モ有キナリ
其等ノ説ハ大和詞ニ見ルレシ

ミコトノ月ノけしき若山ノ蓮仲より首長各此
ニ字初もあはれそく忠の一幸とかりけり
かりぬきをさそくおろはしきくさくし忠と
とらけ

怨七夕ノ意

康安道

ミコトノ月ノけしき若山ノ蓮仲より首長各此
ノの保ノのあかひち

何のそまむせは
いづよおとちきりせ

○評云此詩ハ恨意ナカラ逢不逢意トヤ云ハ誠怨情
ノ的白ナル也等ヲ俳諧ノ微中ト賛シテ和歌モ尺ノ
取ト称スレ按スレ浅猿ハ例ノ假訓ニ意ヲ運ヒテ
此類ヲ大和ノ古文ト云イ虚言ハ常語ヲ論及ス然レ
ニ葉葉ト添は楯トハ全ク作者ノ働ニシテ葉葉ハ根葉
ハ例ノ俗習ナリ況ヤ添は楯ノ古語ヲ假ッテ物ヲ添ハ
ニ據ル字訓ノ郷音モ文字ノ美モ也等ヲ自作ノ絶妙ト称スレ
右今より又首と文楯と新制表の二首と也前の二首
と下葉ノ韻とハ後の二首と二字韻とハ畢竟ハ
求韻の要ナリ作レ不作レモ向スルニ也

まつらんとてやみき ちよ詞のほもあるか
 我もねらひの衣かきまき ねまきえねぬけぬれ
 ○評云此詩毛律法ノ新制表ニテ例ノ大和ノ格トヤ云シ
 一三八言ト櫛トヲ以テ漢ニ前對ノ法十カラ中間ノ二對ニハ
 文ナラ對セス 葭 芦 和 侯 ノ四字ヲ以テ此等ヲ意對
 ノ絶妙ト稱スシ但ヤ假名各ニ直名各ヲ附ハ催馬樂
 ノ古制表ナリ 作者ハ越中ノ富山ニ住ス池田氏ノ家士ニシ
 先師ト北山蘭ノ友ナリトフ

假名詩類 雜題

二果好法師 贊

菟花仙

現はひり静ちりさぬと かねりまははるもるも
 あ部の花をよ送ありり ちる月の月一被花ちるも
 雪の一言に伸直とるひ ちの子のうと成忠いさふ
 本字中言ふるを切まき 是れく叶の種をさむり
 柳後園 藤露 馬や人
 柳の面花おとそれてと ちるらんもけらるるあやら
 むのらくりもむのちるひも けらるるあやらるるあや

柳後園 藤露 馬や人
專文人洛ノ吾仲ノ
 詩歌時狂名

愛文 牡丹
作者ハ枚子頌ニ
 名録アリ
 伊東怒

牡丹と蝶はりともあり 掃も本はよきをみせられ
我をを心のいぢり花を らのちり花帯にまねる

詠^ス梅^ヲ

高九把

梅と えりけ みんあはれえこ

香也 後そで七 喜きききき

園と あやあり きれうらうらむ

雲に 香とある あらはふあをれ

此詩ハ唐ノ李太白カ五七言ニ效ナカラ和ト漢トニ
音訓ノ差別ヨリ句ノ配リ違用ヲ見レ作者ハ
高田氏ニテ尾城下ノ逸人ナリ

擬^レ古^ニ

作者ハ文基序ニ
姓氏アリ

張昇角

松と竹との大路はとけい 如きしあはれを即月を
礼と神代ののこも折りて 餅のまきちりかすあはれ

筆

此詩ハ万葉假名ヲ假ワテ
都金ト時雨トニ字ニ對テ
大和ニ對類ノ格ト云レ

岸昨養

春とらよあのみはあひし 夕子と伴ふる世はさあけ
こころれはあをかぶりー 足あふあふとほはら
あふしあふたふのこやとが 竹あふし席のあふとあけ
そとやあふの性とはあふ いくし遊女の性とはあふ

一字ヲ含スル格ニ隱見ノ絶妙ト稱ス(キナリ)

師走朝霞

仙里紅

舟を控栞の歸しはるゝ 吾中ら顔此栞へ吹て
園より物の故と越れぬ 世と去る川に漕ぎて

○評云此詩ハ黄鞞園ノ歳暮言三ノ賦ニ魚鱗十カラ梅ニ
ハ暗部ノ古歌ヲ摘ミ白川夜船ノ俚語ヲ採テ誠ニ俳諧ノ
滑利ト稱セシ作者ハ柳川ノ十哲ニテ摺ハ木ノ歳ニ各録

松茸狩

松丁牧

秋の對面北へあるら 暖液のこく物さる

ほむじし神のまどぬき けむる傘此栞とてけ
其し中園の鳴やせし けむる傘久しむるふむ
遊路の町も海をひやに 包をさるゝ松茸とてけ

○評云此詩ハ全ク賦鱗十カラ後對ハ例ノ寓言ニ似タト
暖液ニ中園カ中智ヲ喚出セル様ヲ寫シ茸狩ニハ
盛久カ松屢ヲ雨シ乱舞ヲ令ム然レハ西行ノ歌ヲ
起句ト成レ樂天カ詩ヲ結句ト成セル和漢ノ栞ハ更ニ
シテ總テ採文ノ絶妙ト稱ス(作者ハ尾城武内ニシテ
近松ヲ自トシ茂雄ヲ各トス其祖ハ美濃ノ山縣ニ産シ
北野天神ノ氏子ナリト云ハ軍法家ヲ練兵堂ハ稱号ナリ)

戯花

作者ハ能登ノ七尾ニ住ス
岩城氏ノ優人ニ同鱗ト
泥中ノ友ナリト云

岩長羽

いしおらねらるるに花はり
花のよりのあはれは
まをりかたに踏はらるるに
いしおらねらるるに

笠
作者八丹羽年ノ凡人ニキ
尾城下ニ放遊セリ
丹以之

蓮のよきまよとまはらるるに
はらるるのよきまよと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと

鏡岩詠四季
林有琴

水とあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと

唐のつきの花あはれとあはれと
花のよりのあはれとあはれと

花とあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれと

○評云此詩ハ全ク賦体ニシテ四季ニ面詠ノ分明ナル誠ニ風景四絶
ト云ハ但シ鏡ヲ鏡岩トハ各詔ニ似テ獨詠ナリ其山名ハ長良ニ
各高キ稲葉山北面ニ從目テ例長良川ハ東西ニ横フ櫻ニ
螢ハ花和ナル唐ト北岸トノ物淋キ國ニ無双ノ名跡ト云ヘシ
然レ此詩ノ評ニ知レ鏡ノ風流ヨリ四季モ長良ト詞ヲ數キキ
固ニ美シク各ヲ並ヘテ結句ニ詔詔ヲ用タル等ヲ十成俳詩
ト稱スレ作者ハ今ノ長良ニ住ス泊楓老人ノ長田カニシ林仲徳人
ナリ

詠蓮
作者八越中ノ城ヶ端ニ産
其風子

花を仰めお腹くまくれ
花のよりのあはれとあはれと

拙糸の擧げ置しあつと 我の此世にまゝありあつと

梅嫌 作者ハ園論ニ名録アリ 岸倚度

新世はよはくむとあつと 雪と花のなとあつと
梅の白いとあつとあつと 我の此世にまゝありあつと

悼水園公 蓮二房

越のそとに此世にまゝありあつと 世とあつと
月の入る水のそとにまゝありあつと 瓦やおまじりありあつと
武と景とありあつと 文と頼政のそとにまゝありあつと

はらばらとあつと 我の此世にまゝありあつと

○評云此詩の空ありて和漢ニ通用ノ鑑トヤ云ニ
去ハ前對水ト行ト其地ハ竹林ニ河水ヲ廻ラシテ屋敷ヲハ
水園館ト云イ茶廬ヲハ此君菴ト云フ其館ノ各勝ナリ
トフ後對ハ文武ヲ稱シテ其各ハ風流ヲ添ナラフ花ヲ咲カ
トハ本歌ニ敵シテ誠ニ翻轉ノ絶妙ト稱スレ況ヤ七八結語
ニ冥途身ノ各ニ寄セテ同シ道ニト憲ニ慕ル近ク朋友
ノ信ヲ尽シテ遠ク生死ノ道ヲ忘ラト云レ此公ハ金城ノ
駒万子ナリ終焉ノ記ノ筆第ノ註ニ互見スレ

晩整 作者ハ島田氏ニシテ信ノ善克 云未格

山をばらばらとあつと 孤村の月のゆるりとし

二よりとらふらばはる 下のあし指とわれとや

寄録感

松丁牧

白と梓と花をふれとて とき月いのかをたけし
まき孫の前はかたけい 君と孫のかおれし

挑灯吟

作者ノ兩名ハ権藤詠ニ
此詩ハ京師ノ作ナリトフ

陳素六

世とぬらくと猿とあはれ 力とけり孫の字名まき
月あつてまきと孫は 花のあつてまきと孫は
あ月のあつてあはれ 孫あり 時月のあつてあはれ

群の川の流もたらしとや ひとつ踏あげ花流とあはれ

四季詠

作者ハ長野中ノ越ノ新深ニ
住ス長野洲カ家弟ナリ

長北桂

我のお起とどくとくあはれ 時月のあつてあはれ
あ月のあつてあはれ 月とあつてあはれ

去者目録

馬文人

よの中は夢とあはれ ひとりあつてひとりあはれ
麻柯の桜とあはれ 遠くあつてあはれ
刺鱗の孫とあはれ 孫あつてあはれ

今とある鴨川北 東とある河とあるぬ

年加賀 此名ハ深川ヲ標号スヲ讀メ 而老坊

むやう一難名此書に述ゆ 我らむおの林も嘆きむ
里のゆりせ松よおたけりて ちとふつう新舟ちり

新舟遊覧 作者重平ニ此名ハ文鑑ニアリハ第ハ親生家ノ能解ナル故ニトク 梅長者

水月のはりし舟舞の八景とりあむむし夏の
新舟の接おとさくくは風煙るすおとととて毛
栢も毛鐘と音もくんと大炊川の幸に流る

おれ舟おれの風流るるんかうと能備の和歌音らん
新舟の接おとさくくは風煙るすおとととて毛
とけ舟と音もくんと大炊川の幸に流る
とあるに今栢も毛鐘と音もくんと大炊川の幸に流る
の文流るるんかうと能備の和歌音らん
清く新舟の接おとさくくは風煙るすおとととて毛
栢も毛鐘と音もくんと大炊川の幸に流る
新舟の接おとさくくは風煙るすおとととて毛
栢も毛鐘と音もくんと大炊川の幸に流る
かひの接おとさくくは風煙るすおとととて毛
栢も毛鐘と音もくんと大炊川の幸に流る

遊女伝光

伊東怒

けり森の風をむく
 おもひききしきき
 錦もをきききき
 枚子と成るてん
 二殿せききき
 紙地の秋しき
 色しききき
 けりききき

恨別世詩尾城作今各ラ出
セリト掻餅記其評アリ 佐麦士

神道の危むけ阿ふねから
 風の名きし神かきり
 ねとまねお色よきき
 梅もはらと若くねと

呵首尾吟
 岸倚彦

金婦く加とまき
 小ねいと加路よま
 あの手汁よまきね
 ねねいあけとま
 氣よとまきあ
 ねむりくあきとあ
 せしききき
 金婦く加とまき

雨日愛鯛牛
 豆凡曲

かくはあき
 雨の白おのり
 園とりの角地
 赤をかりカ鼓のち
 荒いあて竹の園
 ねとゆきカ鼓の地
 小水絆あて
 ちちりてきき

野馬贊

春花仙

まきの野馬をねお比しと ちまひさくらちりやまあひん
とよよのやれはれいふさかひ 尾に打めやとくつりかく
むあさひのひとまきるあふ 月よりくくおしんはく
きく珠洲の所牧あれはや 霧のつちをそまゆり

寄團扇意

高花把

團扇を人の袖にあれはく 風のきこられはる長ある
よよ松のたけ言ありしと ちまひさくらちりやまあひん

越の巴^じよりしん^{しん}の酔の塔のいとくわ
かの中^ちに^ち尋^た海^うくらた^たさ^さの
はなも^もた^たく^くた^たれ^れし^しと^とま^まり^り
ああつちりあみのほし

蓮二房

蓮をききけあ人のあきさ ぬきつねもせしとくわ
あふ^あふ^ふの^のほ^ほや^やは^はく^く ちまひさくらちりやまあひん

蓮二房の酔也

得巴了

はなと和し

松よひささみの娘さく ちまひさくらちりやまあひん
むうあふた酔をささね ちまひさくらちりやまあひん

○歌類 雜題

寿老人贊

正親町 公通

はくくしるれいしうかきあはる哉
命ふくせしあひいしくあはく

いしう宗紙の瑞しうあはく

しうあはくしうあはくしうあはく
いしうあはくしうあはく

あはくしうあはくしうあはく
いしうあはくしうあはく

題不知

此坊芭蕉翁ノ行名ヲ
得ニ之趣ニ各高キ道心

秋之坊

焼くはくしうあはくしうあはく

あはくしうあはくしうあはく

白髮吟

孟序

芭蕉翁

はくしうあはくしうあはくしうあはく
あはくしうあはくしうあはく
あはくしうあはくしうあはく
あはくしうあはくしうあはく
あはくしうあはくしうあはく

あつ言ふとあつたにうかぬれを袋とわしむし母の
あつた浦のうかぬれを袋とわしむし母のあつた
あつた浦のうかぬれを袋とわしむし母のあつた

一家よりあつたを袋とわしむし母のあつた

あつたを袋とわしむし母のあつた

○評云此吟ハ遺稿ノ後諸ニ題類ノ評論アリ其論略文
ニ故翁膏ヲ官ヲ辭シ玉ニ故郷ヲ隔ルル七余年ヲ或年
此懐旧アリ志ハ天和ノ始トシ其後伊賀ノ西林果登ニ
例ノ文稿ヲ改ルトテ今思フニ向髪ノ總條ハ其目ノ感情ハ
演スレト發句ハ繁ルヤ非ラス也故ニ冬ノ字ヲ以テ歩行
様ヲ形容セシニ當来子ノ詞モ儘ナラス増テ切子ノ入野ナレ

實ヤ有様躰ト云テハこのあつたを袋とわしむし母の
次キテ他諸ノ歌モ然キヤト云ハニ實モ前書ノ咏嘆ヨリ
墨冬ノ哀傷ヲ評セ玉屑ニ云ハ玉將虫ノ悲心ニ有テ吟ノ字
ヲ題センニト漢家ニ杜陵カノ字ヲ假リテ白髪吟トハ題
セテ誠ニ題類ノ太切ナル也等ノ註ヲ知レトフ但シ此論
古文後佳キニ黄堅中カ産字ノ沙汰ナリ然レハ今ノ歌類
ニ詞曲吟讚ノ類アルハ漢家ニ文選ニ隨ヒ本朝ニ文粹ニ效
ニテ詩歌本ナリ一根ナル故ニ此等ノ題ヲ交スル後人例考レ

扇歌 五序

東花坊

あつたを袋とわしむし母のあつた
あつたを袋とわしむし母のあつた
あつたを袋とわしむし母のあつた

これの歌のあらうとてしけ節のしらぬ世といふに
の法はちしあはくを我らめをあらう

たしや歌を人の心はたはたしと名をば

ちりあつれさしけ節のあらうとてしけ

たしや歌を人の心はたはたしと名をば

ちりあつれさしけ節のあらうとてしけ

たしや歌を人の心はたはたしと名をば

ちりあつれさしけ節のあらうとてしけ

たしや歌を人の心はたはたしと名をば

ちりあつれさしけ節のあらうとてしけ

たしや歌を人の心はたはたしと名をば
ちりあつれさしけ節のあらうとてしけ

たしや歌を人の心はたはたしと名をば

ちりあつれさしけ節のあらうとてしけ

たしや歌を人の心はたはたしと名をば

○評云此歌八全篇六章ニシテ毎章ニ之句充ナルヲ率ヤ
世羽ニト拍子ヲ換テ結文ハ和歌ノ語路ト成セ凡ハ
格トヤ云シ然レニ此歌ノ韻法ハ和歌ニ求韻ノ古制長十カラ例ニ
我家ノ新格ヲ加テテ羽五章ハ起語モ結語モ五韻一協ノ
躰ナカラ後ノ一章ニ韻ヲ換スルハ又ノ舌音ニテ前ノ韻系テ
結文ハ分クスツノ韻ト成セ凡ハ秋凡辭ノ知キ六韻一葉ノ

あふのせむらひもさや 鹿とくぬの鹿ちりさ
 暖湯のちりしれゆらき 服部あふれゆらき
 心あふれしれゆらき 夕日のあふれゆらき
 いせの雲もれゆらき ちかやけのあふれゆらき
 世と秋風の同じくさな ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき 月とちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき 腰のちかやけのあふれゆらき

七文張和讃

之音

百阿佛

阿彌陀佛とてあふれゆらきとてあふれゆらきとてあふれゆらき

のまはれとてあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき
 ちかやけのあふれゆらき

○評云 礼讃ハ序山ノ遠法師ニ始リテ太夫事ノ善観序ノ節
 ヲ附玉ニ我朝ノ声明ト成セリ其意ハ仏ヲ讃歎ノ和歌
 ニ咏嘆ノ類ナリトフ然レハ此讃ノ趣ハ人間ノ色采白ヲ

星三寄セテ人ニ無常ヲ示スハ應現婦女ノ仏説ニ善菩薩
ニ天部ノ稱号ト知レ誠ニ能諾ノ契ニ云レ詠為詠諫モ世古又
三遊宴中ノ哀ホ知レ下リ百阿ノ名ハ刺髪又ニ出
タリ

讀法華經

秋之坊

その時よとてもらほりれおすあ
こげとあもらひおせちひくれ

故人庵茶歌

蓮二房

唐のやうに花ごれ巾に一斗百のふりやう
手ぬ先せうかききし角に風動作捷是故人

来るをいそりりき飲茶達おねいけけ行
おつれえむいれとけなめあうと茶者のいれ
いそ海あきめし産らぬ北洲いそとていそ
離れぬちとていそあきとまういそあき
多うはせのゆれ空のふし唐とあうと北行
柱のしもまらう程長の野野草とりいそ
おきの標が茶と入れとあうとあうとあ
ちれきとあら茶の石のきつねらあき
へ遊のゆんせれとあきあのかうとあき
茶枚とていそあきとていそ人の枕詞あ

客スハ玉川モ茶湯ハ婦ト見タリニ碗以下七碗ニテ其歌ノ
 取意ナリ●同歌唯覺兩腋習々清風生云○貫之歌
 梯ちるふあめりたををのりて定まらぬ友をそわめり
 嵐ノ通フ上式子内親王ノ歌ノ裁入ナリ○新古今のあはれ也
 くりしり入ノ佛のあはれ吹あつる秋のそ風○孫子載子代
 ぬきくおのよるまゝに柱つれ行もやとふとふなるん
 ●茶歌 結文 蓬萊山在何處 玉川子乘清風 歌
 帰去云 結語ハ以ノ一字ヨリ一篇ノ断續ヲ見ルキナリ
 ○漢云 此言と如より孫まゝに序今も茶歌と題してをま
 り起指断續の句振子しおるを也程子の辨りてを
 し新製の二格としてしはれし行はぬ人のほし李の
 ことし李益とて作者も両説のけはれい例の後勤

一玉色もく今茶碗の稱よりちやと茶とほると一節の
 まじ地とちやし作と違ふに子代の祝言ともしとい
 て句振とあましく和音の振まゝをとりをると和音の
 澄ららるる也程子此辨とまらるるをいられ世ありしを
 清家の抄にありし越の福赤く婿官も去駁ハ他清
 のあまらるるなりし公暇の暇をとり青了園とあまら
 して六松とと方印のなまありしと也

練漣歌

野盤子

野 棲 山 宿 野 盤 子 愁 病 何 為 核 淚 頻
 批 李 雞 親 唯 一 日 雁 無 易 過 已 之 春

可憐重^ム茶^チ長^{ナガク}為^タ客^{キヤク}自愧^{ジキ}傳^ツ書^{シヤ}遠^{トウ}附^ツ人^ニ
 我^ワ聞^ク 夜深^{ヤシク} 扱^ツ木^キ身^ミ墮^ト 日^ヒ莫^ム自^ジ忘^{ワス}家^カ
 子^コ罵^{カス} 嗟^サ夫^フ 灯^{トウ}火^カ幾^イ年^{ネン}傍^{ハシ}母^モ 香^{カウ}烟^{エン}
 影^{カゲ}月^{ツキ}亡^{ナシ}親^{シン} 君^{キミ}見^ミ 眼^メ深^{シク}烟^{エン}霞^カ誰^{ナニ}可^カ
 憐^レ心^{シン}誇^ホ以^テ月^{ツキ}未^ミ全^{ケン}貪^{オン}起^キ来^キ好^{コトク}有^ユ皮^ヒ與^ユ
 骨^{ボネ}獨^{ドク}可^カ以^テ雲^{クモ}放^ツ此^{コノ}身^ミ

○評云此歌ハ灯^{トウ}花^カ詩^シ最^{モト}在^リテ天^{テン}和^ワ比^ヒ作^サリト誠^{マコト}ニ一篇^{ヒツク}ノ
 躰^{シヤク}ヲ見^ミハ趣^{ソウ}ハ漢^{カン}家^カノ語^ゴ脉^{マク}ナカラ意^イハ天^{テン}和^ワノ風^{フウ}儀^イト云^{イハ}シ然^{シカ}ハ
 此^{コノ}類^{ルイ}ノ格^{カク}ヲモ傳^ツテ和^ワ漢^{カン}ニ通^ツ用^{ユウ}ノ鑑^{ケン}ト成^ルナハ此^{コノ}文集^{ブツシツ}ノ採^{サイ}ナラシ
 例^{レイ}ニ詩^シ最^{モト}中^{ナカ}ヲ透^ス来^キテ此^{コノ}一篇^{ヒツク}ヲ出^デセルナリ字^ジハ趣^{ソウ}意^イノ

○此^{コノ}類^{ルイ}ノ格^{カク}ヲモ傳^ツテ和^ワ漢^{カン}ニ通^ツ用^{ユウ}ノ鑑^{ケン}ト成^ルナハ此^{コノ}文集^{ブツシツ}ノ採^{サイ}ナラシ
 例^{レイ}ニ詩^シ最^{モト}中^{ナカ}ヲ透^ス来^キテ此^{コノ}一篇^{ヒツク}ヲ出^デセルナリ字^ジハ趣^{ソウ}意^イノ
 於^オ亭^{テイ}ノ病^{ビョウ}懷^ヱヲ字^ジセシ野^ノ盤^{パン}ハ先^{セン}師^シノ名^ナナカラ竹^{チク}宿^{しやく}水^{スイ}持^チノ
 意^イヨリ起^キ句^クニ我^ワ名^ナヲ喚^ウ出^デセリト右^{ミダリ}ハ本^{ホン}佳^カホノ題^{タイ}註^{チュ}ナリ抑^ヨスニ
 此^{コノ}歌^カハ其^{ソノ}融^{ユウ}カ益^{イキ}山^{サン}歌^カノ如^シク七^{シチ}六^{ロク}ノ句^ク法^{ホウ}ヲ用^{ユウ}テ三^{サン}町^{チヨウ}發^{ハツ}語^ゴ
 ハ例^{レイ}ノ樂^{ラク}府^フニ效^{ケフ}ヘリ然^{シカ}ニ古^コ文^{ブン}ノ歌^カ曲^{キョク}ヲ見^ミレハ五^ゴ七^{シチ}ノ語^ゴ路^ロハ和^ワ漢^{カン}
 ノ恒^{コト}例^{レイ}ニテ或^{シカ}ハ九^ク七^{シチ}ノ長^{チヤウ}短^{タン}アリ或^{シカ}ハ五^ゴ七^{シチ}ノ長^{チヤウ}短^{タン}アリト假^カ名^ナニ語
 路^ロノ拍^{パク}子^シニ合^アス多^タク音^{オン}訓^{クン}ノ差^サ別^{ベツ}ニシテ和^ワ漢^{カン}ノ字^ジ向^{キョウ}ノ遠^{エン}月^{ツキ}
 ナハ先^{セン}師^シノ詩^シ序^コニ云^{イハ}ル如^シク趣^{ソウ}ハ漢^{カン}語^ゴノ字^ジ面^{メン}ヲ飾^シルニ意^イハ
 和^ワ詩^シノ風^{フウ}俗^{ソク}ヲ失^シフ事^{コト}ス然^{シカ}ニ語^ゴ路^ロト音^{オン}韻^{ウン}ノ沙^{シャ}法^{ホウ}ハ辟^{ヘキ}言^{ゴン}ハ官^{クワン}相
 江^{カウ}州^{シュウ}ノ智^チアルモ我^ワ朝^{テウ}土^ト地^チニ素^ソ達^{タク}スル字^ジ者^{シヤ}ハ漢^{カン}家^カノ假^カ燒^{シヤウ}ノ無^ム
 筆^{ヒツ}ニモ方^{ホウ}リテ語^ゴ路^ロノ長^{チヤウ}短^{タン}ト音^{オン}韻^{ウン}ノ叶^{エフ}不^フ叶^{エフ}ハ皆^カ々^カ推^{ツイ}量^{リヤウ}ノ苦
 ナハ返^{ヘン}スルモ我^ワ内^{ナイ}ノ字^ジ者^{シヤ}ハ假^カ名^ナト直^{ジキ}名^ナトノ通^ツ用^{ユウ}ヲ知^チナリ

○辨類

重人^{ニキ}重^キ辨

以庵和尚

日向^{アケルユロホヒ}ち却^リ来^テて天^ヲ見^ル神^ハ波

夏^モ衣^ヲ奈^ク矣^ヲ物^ヲ遠^ク折^リ | 緑^ヲ

耳^ヲて在^リ波^ノに^レ奈^ク日^ノ | 農

色^ハ能^ク養^フ

戲^ニち^ニく^ニ興^ヲ好^ム了^ル人^ニ

○評云此一字^ニ重人^ニ無^ク夢^ト云^ハ古語^ノ四字^ヲ題^シテ
此字^ハ躰^ニ書^キ置^キ玉^ルラ^ズ愛^ニ辨^ノ一字^ヲ添^テ文^ヲ採^リ飾^トハ

感^キテ^リ去^ル此^ハ文^ノ指^子ヲ^評セ^ハ或^ハ万^葉ノ^旋頭^歌主^非
ス^或ハ^庭訓^ノ首^名各^文主^非ス^此等^ヲ大^和ノ^辨ト^名附^テ例^ニ
文^採ノ^新製^トヤ^云ハ^誠ニ^此和^尚ハ^世ニ^勝テ^其文^ニテ^其實^ニ
ナル^愛ニ^好事^ノ以^流ヲ^見ル^其世^ニ俳^諧ヲ^勤ケ^ル本^意ナ^シ

刀虫^ノ辨^并序

苗宰陀

海^ノ館^ノ城^{あり}と^やも^國を^仰め^居る^の事^{なり}。富^士
ま^{あり}の^り米^をね^あい^し事^{なり}と^やも^國を^仰め^居る^の事^{なり}と^や
宵^中ノ^茶向^とか^しと^云ハ^此と^辨ス^ル事^{なり}カ^もも^や子^ノ
の^ら雪^舟雪^村の^事と^云ハ^此と^辨ス^ル事^{なり}カ^もも^や子^ノの^歌

衰辭頭葉衰辭樹與故誠運和溪之情而
多無感慨乘耶今將不住吉之和歌共將競
文章之哀與也熟思人之遊世則同好花
身之色了耳樂絲竹之聲了棟其香了調
其味了此四者實謂意之馬車矣乍左有
此四者善用了則為樂人了惡用了則為
苦人了物皆謂一得一失者矣于然謂人
向之遺物者貴麼賤麼武夫麼商人麼有
日々夜々之用而真豈了口齡了令樂人
了共無令苦人事兩連受過世人者眠花

了辭月了盛時尔者不樂其盡衰月尔者
苦此盡不知生則何知死與者孔子麼所
宣給盡之事也乘奈何所故人之思違而
耳同者為不病月之用心共盡者不思不
衰時之養生矣雨人之嚼老而老曾木林之
夕岚為驚一葉之秋則葛之每葉動初鼻
矣菰之上葉麼以洩而物言則笑了產部
了物喰則慙通給司了何欲老身之雨者
有見苦耳副同副不似于盡乘矣好夫
所謂人有髮容了共伊勢海蟹之不築之深

麼有令意墨漆之尼撮共為齒之技手者
 不真燧而曉之漆覆麼有物學手抄社人
 之為意連飾耳了耶瑳鼻止耶齒者誘引
 謂伴達之花矣止在者觀物之采落
 了則各麼被環摺針之砂而某所有鏡之
 山則沐梅花之油居嗽揚枝之薰而昨日
 者貴於夜光之璧兮今日者賤如夕貞之
 核兮何之采落如斯也耶朝顏者花之假
 也共不似生而見憂同人季昔手佳了雉
 子之香而不異鬼之嚼煎餅了今也馴入

豆腐之味而為似蝶之膏牡丹兮斯也
 老之声色也則畫已將為明暮之樂厚哉
 我若魚同則隨魚而令管絃之中遊心矣
 我若魚耳則隨魚而可書益之旬置身矣
 實夫在世而無齒則且兮有百味之膳共
 夕兮有八珍之菓共歡令悅老之同而所
 宜給心造罪非施餓鬼之誠季耶我今悔
 一齒之過而誨而世之人了則可畏飲食兮
 不云酒色了身者所采若松之綠共心者
 黃夏老木之葉迄厭入身秋之風而從鷹

之悟ツクム一羽ツク麼ヨリモ從ツク蘭ツク之ツク培ツク二葉ツク麼ツク彌ツク疾ツク詩ツク一
 畫ツク之ツク價ツク而ツク不ツク換ツク千ツク兩ツク之ツク黃ツク金ツク了ツク哉ツク在ツク迎ツク換ツク
 月ツク花ツク之ツク凡ツク色ツク而ツク貪ツク魚ツク鳥ツク之ツク凡ツク味ツク則ツク從ツク詩ツク歌ツク
 連ツク歌ツク可ツク賤ツク見ツク了ツク共ツク聖ツク帝ツク之ツク詞ツク今ツク麼ツク人ツク者ツク以ツク
 食ツク為ツク天ツク與ツク手ツク兼ツク好ツク法ツク師ツク麼ツク從ツク玉ツク卮ツク者ツク以ツク飯ツク
 思ツク意ツク味ツク敷ツク則ツク故ツク書ツク置ツク流ツク石ツク之ツク竹ツク第ツク泉ツク矣ツク於ツク
 然ツク人ツク之ツク忘ツク畫ツク也ツク則ツク可ツク厭ツク者ツク謂ツク忘ツク來ツク而ツク歎ツク耶ツク
 誠ツク為ツク忘ツク天ツク人ツク也ツク正ツク

○評云此題ハ白ハ氏ハ文集ニ出テ樂天力老羨歎ルシ灯花詩取
 感ノ一字ヲ加テ大和真各ノ辭ト成セリ去リヤ佛家ノ

經説眼耳鼻舌身意ヲ六根ト云ク色声香味觸法ヲ
 六欲トシテ園通ラ説テ其利益ヲ勸メ執着ヲ誡メテ其
 損害ヲ懲ラス六根ハ但レ善惡ノ二相トス然レモ此畫ノ用
 々ヤ四支九竅ノ働ニ勝リテ日夜ニ今ラ利を任卿モ物ヲ害
 スル夏ナレバ後多声色ヲ離レ六欲中ニ何ヲ樂シ去ラ
 儒書モ仁經モ世道ノ法ヲ稱セテ強テ耳同ニ難附テ畫
 ニ千金ノ價ヲ争ヒ多ク文章ノ意地ト知リ佛諸ノ筆格
 ト知キナリ誠ニ三篇ノ凡流ヲ稱セレ也曾ノ説六和音ノ婉曲ヲ
 字シ摺針ノ段六佛諸ノ談笑ヲ冬レテ中比六留篇ノ大綱トシテ
 管絃ト書合下ニ耳同ヲ讓ハテ畫ニ老後ノ日用ヲ奉ルニ
 前ニ六孔子ノ死生論ヲ合ハセ後ニ秋官ノ饑鬼道ヲ引キテ
 儒仙ノ證文ニ文章ヲ固見タル増テ雁羽ト南葉ハ和訓ニ

齒字ノ郷音十六本ヨリ六書ノ例ニ效テ和漢ニ假借ノ絶妙ヲ行
 スレ然ルニ一篇ノ結段ハ例ニ連解ノ敵詞ヨリ各ニ遇フ書經ノ
 帝範ヲ引テ天ノ字ニ万人ヲ誠ス誠ニ理論ノ虚実ト云イ誠
 ニ文法ノ死活ト云イ和漢ニ假名真名ノ自在ヲ得テ其筆ヲ
 文探ノ本懐ト云ハシ字ノ文字ノ置所ヨリ句讀ノ長
 短ニ眼ヲ留キナリ

文探卷之二終



